



全国総会へ参

平成30年度の県隊友会長等会同ならびに定時総会が6月26日に東京・ホテルアルカディア市ヶ谷で開催されました。本部報告事業として、①政策提言書について、②防災ボランティア活動見直し、③隊員家族の支援事業、④再就職支援事業などについての説明がありました。細部は、9月23日の県支部長会議で説明したところです。なお新規事業「家族支援」については、国分駐屯地業務隊が中心となり



全国表彰受賞の左から、鶴菌成人氏、岩崎理一郎氏、感謝状受賞のジブラル生命

自衛隊勤務を通じた災害への思い

私は、自衛隊勤務の殆どを他方面隊で過ごしたが、災害対策と言えど地震であった。中でも東方・中方勤務では、当時東海地震等4つの地震対処計画があり指揮官・訓練主務者の立場として、特に休みの日の電話やニュース速報にピリピリしていたことを覚えていて。その後東日本大震災に伴う出動、その経験を活かした南海トラフ・首都直下地震による津波対処マニュアル 武山駐屯

地)作成等、長期にわたる地震を意識させられてきた。定年直前に西方勤務となり、地震の心配から解放されたが、定年となった2年前に熊本地震が発生、思わず「九州よ。お前もか。」と叫んだ次第である。入隊するまで県内での災害イコール風水害と記憶していたが、最近に加えて異常気象、新燃岳の噴火、地震等対応を迫られる災害が増加している。鹿児島県は、暑さには

◆発行◆
鹿児島県隊友会

◆発行責任者◆
村山文彦

◆印刷◆
(株)新生社
鹿児島市七ツ島
TEL 099-261-0111



全国表彰受賞の西村輝夫氏、

留守家族支援協定を結

鹿児島県隊友会は、平成30年8月8日、国分駐屯地において、天規模災害時における派遣隊員の留守家族支援に関する協定」を鹿児島県自衛隊家族会及び自衛隊陸

強く、過去の教訓から風水害や噴火に対しても整備や訓練が充実しており自治体・県民の防災意識も高い一方、地震に関しては免疫力が無いように感じる。地震とはあまり縁が無いので仕方ない面もあるが、同じく無縁で発生確率が極めて低いとされた大阪でも今年M6の地震が発生し、南海トラフ地震においては、志布志湾一帯や離島への津波が予想されており、県にとっても決して他人事ではないのである。

発的な地震と桜島の大規模噴火(大正並み)に対する意識を高めていく必要があると考える。我々は、地球が誕生してからの長い歴史の中で今という一瞬を過ごしているに過ぎない。地震・火山大日本に住んでいることを自覚し、今後何が起きてもおかしくないという覚悟を持って余生を過ごしたい。

東日本大震災「時に家族の安否確認ができないまま不安を抱えて災害派遣の任務に当たった隊員や夫が長期不在で生活に困窮した家族がいたことから家族会が活動開始。平成25年には陸自が家族会の協力を得て家族支援施策を施行、平成29年には隊友会も協力を開始して、平成29年5月18日、陸幕、家族会、隊友会において、隊員家族の支援に対する協力に関する協定」を締結、これを受け鹿児島県隊友会も本年春から国分駐屯地業務隊を中心に鹿児島県における留守家族支援に関する協定締結のため調整・準備を進めてきた。本協定は大規模災害を

主力は彼半島を大きく迂回したのでした。任務不達成が苦しい思い出です。2つ目は海上保安庁へリ男島墜落。現場へ複数移動手段。レンジャー中隊を編成し、駐屯地から輸送ヘリで福江島へ、福江港から海自艦で男島沖合へ、乗換えして瀬渡し船で上陸し、その後捜索に。台風接近に伴い島を離脱しましたが、帰路遺体が海上で見えなかった。ニューズを耳にしました。次に3つ目の赴任地、花の浮島、礼文。当時、冬のフェリー経済欠航に伴い、十分な生鮮食品が出回らない北限の島で

した。そんな中、島固有の礼文アツモリ草が盗掘されて激減したため、これを増殖しようと町営パイオセンターが運営されていきました。えびね蘭を栽培していた私は、人工交配の花を作ろうと、施設を研修してその技法を習得し、定年後本格的に始めました。冷・暖房の効いた室内の寒天培地のビンの中、特殊光で成長を促し、毎年オリジナルを作っています。電気代はかかりませんが、生涯趣味として生き甲斐となっていてます。次に8つ目の赴任地、常夏の沖縄、那覇。夢であつたマラソンに挑戦しようと思身赴任の余暇に走りだしました。休日には那覇空港、旧海軍壕、ひめゆりの塔へと汗を流しました。島一周と那国24kmマラソンでペース感覚をつかみ、那覇マラソンへ。宮里藍ちゃんの号砲でスタートし、5時間余りで完走しました。菜の花マラソンを含め、3つのフル・7つのハーフマラソン完走は、持久的体力の自信となっています。鹿児島地区協議会 権柑山洋一 記

キャンプガイドの思い 先ず近年の台風や地震など多くの自然災害が発生する中、現役自衛官の昼夜を問わない災害派遣等活動に本当に感謝して

在職中の印象に残る思い出を紹介いたします。最初の赴任地は大村。2つの災害派遣。未曾有の雨による長崎水害。命により、情報小隊長として、部隊が長崎市へ進出可能な経路の発見に、豪雨の中、深夜1時、ジープで駐屯地を後にしました。諫早付近からはいづれも土砂崩れで不通。迂回に迂回を重ねやつと市街地に抜け出したのは6時過ぎ。その時、連隊

適用事態とし、留守家族の安否確認や生活支援等を行う。担当区割りには、自衛隊側は大隅半島及び離島地区を国分駐屯地業務隊 奄美に駐屯地が開設された場合、離島は奄美駐屯地業務隊、薩摩半島地区を川内駐屯地業務隊が担当し、家族会と隊友会はそれぞれ所在する市町村の支援要望家族を担当する。

納涼カラオケ大会開催 鹿児島地区協議会 鹿児島地区協議会は、8月19日(日)市内のホテル福丸において恒例の納涼大会を開催しました。今年には西支部の担当で、支部代表3名の対抗によるカラオケ大会が企画され、家族・女性会員を含む38名が参加しました。

一人が歌い終わる度にテーブルごとに採点した点数カードを表示して、その合計点で競いました。女性や自己支部には甘い点が出るなど、終始和やかで大いに盛り上がりました。

最高齢87歳の梶原隊友率いる東支部の優勝となりましたが、支部対抗戦が終わっても次々と飛び入りの歌が続き、来年の担当である横手南支部長の挨拶で楽しい3時間の幕を閉じました。 鹿児島地区協議会 事務局 記

大いに盛り上がったカラオケ大会



栗之丸一也氏



協定締結後の指揮官及び会長



大いに盛り上がったカラオケ大会

現在はお金さえあれば何でも手にはいる時代、反対に何もない自然の中で対応力がどんどん失われていきます。防災訓練など大掛かりなものではなく、個人や家族でサバイバルを体験し『互助・共助の力』をつけていただきたいと思います。 喜入支部 高木進 記

帰線

キャンプガイドの思い 先ず近年の台風や地震など多くの自然災害が発生する中、現役自衛官の昼夜を問わない災害派遣等活動に本当に感謝して

錦江湾横断 遠泳支援 防大同窓会

去る、8月5日(日)第32回 桜島・錦江湾横断遠泳大会が実施された。

本大会は、鹿児島青年会議所(JC)海を活動した街づくり委員会主催で、毎年実施される鹿児島市の夏を彩る一大イベントであり、桜島の小池海岸から磯海水浴場までの約4kmを泳ぐ大会である。

この時期は、毎年、台風接近等で大会実施が懸念される時期でもあるが、今年は天候にも恵まれ、5名1組、125個チーム(計650人)の選手

が泳ぎ、1件の事故もなく、盛大に大会を終了することができた。

この大会実施に当たっては、各チームの伴走船に乗るアテンドスタッフに支える約300人のボランティアスタッフが活躍しており、また、実行委員会の組織の中にも、天

大会から大会運営に参加しており、13回目となる今年、鹿児島県防大同窓会10人、県隊友会鹿児島地区協議会)5人、国分駐屯地曹友会4人の計19人の有志が約6時間、9隻の審判船に分乗し、大会審判に活躍した。

大会終了後、磯海水浴場において全員で集合写真を撮り、また来年の大会に向けて一致団結して円滑な大会運営に寄与することを誓い合った。



「桜島・錦江湾横断遠泳大会」審判員達

東郷平八郎記念日式典開

鹿児島水交会は、かねて、明治維新150年に相応しく盛大に挙げてきました。

式典は、鹿児島航空基地の若鷹太鼓の演奏に始まり、続いて東郷元帥の慰霊・顕彰・永続貢献の日」を海自佐世保音楽隊、海自第1航空群、自衛隊鹿児島地本の全面的な支援のもと開催しました。

当日は、雨天での挙行政となり、青葉、若葉の映える公園に、国旗、軍艦旗、Z旗が翻る中、三反園県知事をはじめ、東郷神社司宮代理、東郷家ゆかりの方々、政財界、自治体、自衛隊、海上保安庁並びに防衛協力団体等約300名の参加を得

その後、来賓挨拶のなかで三反園知事は、水交会の役割、特に水交会が東郷元帥の顕彰活動を続けていること、テロ、地域紛争等が国周辺での安全に係る問題が緊迫の度を増している中で自衛隊、海保に対して深く敬意を表すること等について述べられました。

NHK大河ドラマ「西郷どん」と東郷元帥との関係や約110年前のバルチック艦隊撃破までの経過等を紹介し、最後に「鹿児島を誇り、世界の東郷を良く学び、全世界の人々に誇らしく語れる意義に思いを致します」と述べました。

最後に、鹿児島水交会副会長のお礼の挨拶、国歌、軍艦旗の降下で予定どおり終了しました。

平成30年9月3日訓練検閲閲に伴い、国分駐屯地において実施された第12普通科連隊出陣式に鹿児島県隊友会から村山会長、副会長、近傍国分、隼人、始良、加治木、横川)支部長、会

副会長 宮口修一 記

意見交換 会・災害派遣慰

鹿児島県隊友会 会長村山文彦)においては、現職部隊等との連携及び意志の疎通を図る目的で8月6日(月)、陸自国分駐屯地において、現職隊員との意見交換会を実施した。

当日は、県隊友会から村山会長をはじめ、平原・宮口副会長、事務局常務理事、地元の国分・隼人支部長等、計12名が参加し、国分駐屯地において、各部隊長をはじめ、各級指揮官・幕僚及び曹友会長等計22名が参加し、相互の現況説明の後、活発な意見交換を実施した。

特に、隊友会の会勢拡

大、大規模災害派遣等協力及び新たな家族支援施策等について、今後の相互連携及び積極的な協力体制の構築に寄与できたものと思う。

また、国分駐屯地 第12普通科連隊)においては、先月の西日本豪雨災害に際し、7月13日〜23日の間、延べ3400名の隊員が広島地区に災害派遣活動に出動しており、この席において、各部隊長に対し、県隊友会長から慰労品(焼酎隊友)を手渡した。

なお、本災害派遣に対しては、川内駐屯地 第8施設大隊)からも述べ650名、車両・建設機材等、計28台が出動しており、翌日の8月7日小楠薩摩川内支部長が川内駐屯地を訪問し、駐屯地司令室において災害派遣慰労を実施した。

大、大規模災害派遣等協力及び新たな家族支援施策等について、今後の相互連携及び積極的な協力体制の構築に寄与できたものと思う。

シリーズ 十二 宝暦治水「山元八兵衛定矩翁」 隼人支部 石神民男氏

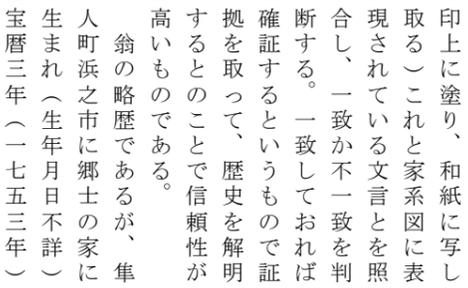
今回から、郷土の先人である薩摩義士山元八兵衛翁について、書いてみたいと思う。

霧島市には、宝暦治水工事に隼人町出身の山元八兵衛翁の他に鬼塚喜兵衛翁、溝辺町の井手上渡右衛門翁の三人が判明している。

このうち山元八兵衛翁について、紹介する。これらの発見は、私の友人である隼人町教育委員である藤浪三千尋君の功績が大きく、彼の調査・研究を基に記述するものである。

藤浪君の手法は、墓石等の刻印を拓本(墨を刻印上に塗り、和紙に写し取る)これと家系図に照合し、一致か不一致を判断する。一致しておれば確認するというもので証拠を取って、歴史を解明するとのことで信頼性が高いものである。

第8施設大隊長(左)及び12普通連隊長(右)を慰労



翁の略歴であるが、隼人町浜之市に郷土の家に生まれ(生年月日不詳)宝暦三年(一七五三年)に参列し、二百六十五年



左側縦2枚海蔵寺墓地

環境美化で受賞 薩摩川内支部

薩摩川内支部では会員が、市内各地で様々なボランティア活動を行っています

この中で自治会で活躍する隊友会員の活動の一端を

ご紹介します。

川畑自治会副会長島津幸夫氏は、自治会の環境美化の責任者として活動しています。

島津氏がリードする活動は、『ふれあい花壇』と称する花壇を設置し、およそ100名の有志会員が10年の長きにわたって活動を継続しています。



花壇は、地域の県道沿いや公園、老人福祉施設の近傍など約10か所に設置され、地元の人々はもちろんのこと、地域を訪れる方々にも好評を博しています。

活動が終われば打ち上げで焼酎を傾け、参加者相互に疲労回復と親睦を図っています。

紹介しました島津氏の活動と同様に、支部の会員が自ら活動して地域に貢献し、明るく・楽しく・健康的に毎日を過ごして頂ければと念ずる次第です。

薩摩川内支部長 小楠 功一 記

「訓練検閲 出陣式」で激励 副会長 宮口修一氏

平成30年9月3日訓練検閲閲に伴い、国分駐屯地において実施された第12普通科連隊出陣式に鹿児島県隊友会から村山会長、副会長、近傍

国分、隼人、始良、加治木、横川)支部長、会

副会長 宮口修一 記

副会長 宮口修一 記

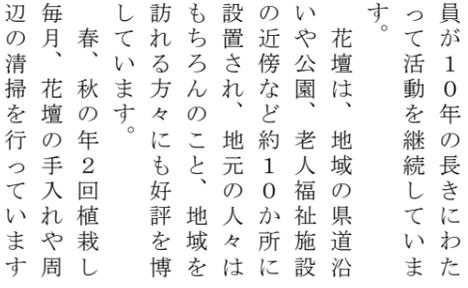
「高齢者武道大会 会」で3位入賞 全支支部 西村輝夫氏

金峰支部 西村輝夫会員(76歳)は、6月4日全日本高齢者武道大会75歳以上の部で3位入賞した。

西村会員は少年自衛隊第4期生で、若い頃から武道に励み、現在銃剣道8段範士、剣道・杖道7段教士、他に古武道の得意な武人です。

県事務局 後藤記

県事務局 後藤記



3位入賞の西村氏

「訓練検閲出陣式」で激励副会長 宮口修一氏

副会長 宮口修一 記

副会長 宮口修一 記

新支部紹介 慰霊碑清掃

隊友会横川支部 支部長 藤崎健)は8月5日横川町戦没者慰霊祭に先立ち慰霊碑参道の階段清掃や雑木の伐採、周辺の草刈等清掃奉仕活動を実施した。

この地域には西南戦争から第2次世界大戦までの5基の慰霊碑が建立され、戦争に尊い命を捧げた横川出身者の英霊が祀られている。会員は、先人の英霊に感謝と尊敬の念をもって哀悼の意を表し、かつ国の平和と安全への願いを込め当活動に取り組んだ。

支部の意見

昭和8年生まれの85才。昭和27年発足したばかりの海自の前身、海上警備隊の舞鶴練習隊に1期生として入隊し3ヶ月の教育を終え、米軍から貸与されたPFフリゲート艦)に配乗された。その後大小11隻の艦艇に勤務し、長いのは4年、短いのは1週間というのも2隻ありました。新造艦の「ほるかぜ」、あきづき」は、艦装員から乗艦しました。

多くの人と苦楽を共にしましたが、思い出されるのは楽しいことばかりです。防大、鹿児島地連での勤務は、陸・空の自衛官は勿論技官・事務官等いろいろな人の交流があり、貴重な体験でした。S27年〜30年頃の海自は、部隊も限られて

追記

隼人支部横川分会は、平成30年7月に横川支部立ち上げ準備会議及び臨時総会を開催し、全会員 新規・再入会会員を含む。)の賛同を得、新支部を結成し活動を開始した。なお、8月25日横川町丸岡公園会議室にて、懇親会を兼ねた発足を開催した。横川支部事務局 立山朋幸 記



新横川支部の会員達

総会・懇親会で大盛會

さつま支部は6月9日に隊友会の総会・懇親会を湯田荘において実施しました。総会に先立ち午後1時半からグラウンドゴルフ大会を21人の参加を得て実施しました。梅雨期の真っ只中で天候が気がかりでしたが、幸い雨が降らず蒸し暑い中ではありましたが、和気あいあいとグラウンドゴルフが実施でき、程よいのどの渇きでビールも進みました。総会には25人が出席



盛り上がった懇親会

防災講演雑感

去る6月熊本市長の防災講演を聞く機会があった。演題は「災害に強い町づくりー自助・共助の重要性ー」というものだった。平成28年4月の熊本地震に関するもので、その概要は、先ず1番に初体験の職員に動揺ぶりが著しかった事。また職員

よう、立派な社会人たらずとも普通の社会人として生きていきたいと思えます。厳しくも、陰しくも乗り越えゆかば大海原も待てば海路の日和あり」終わります。喜入支部 有村光吉 記



定年直後の有村光吉氏

「小学生の夢」に思う

公務員系では、教師・警察官・消防士」、珍しいことに「海上保安官」が一人いた。しかしながら、自衛官」を夢の対象とする小学生が皆無なのは、少し寂しい思いがした。阪神・淡路大震災以降国民と自衛隊との距離が縮まったと言われるものの、一生を国防に投じた者として何かやるせない気持ちである。

平成の世の特性と地域性が良く表れ、とても興味深く眺めてきた。まず目につくのは、全国的にも人気が高い「スポーツ選手」、次に父親の影響を受けたのか「農業・林業・大工」、女子では「保育士、看護師、パティシエ」と並ぶ。

自助については、家族の理解と協力が重要である。自助にあっては近隣に住む人達とのコミュニケーションと協力が不可欠である。今も列島各地では、地震が頻発しているし、豪雨災害も絶えない。備え」に向けての精進・努力が求められているように思う。今日この頃である(防災士) 伊集院支部長林孝二郎 記



林孝二郎伊集院支部長

総会で西郷どん講話

6月17日(日)鹿児島県護国神社大ホールにて、平成30年度鹿児島地区協議会総会が新会員5人を含み52人の参加を得て開催された。冒頭、地本の迫口鹿児島募集案内所長から現在の厳しい募集環境について説明があり、特に自衛官候補生について協力の依頼があった。

総会では河野前会長から、会活動参加へのお礼と体調不良のため交代する旨の挨拶があった。総会後、西郷隆盛の妻イトさんの子孫にあたる東支部若松宏氏から「西郷どん」についての講話

2年後に東京オリンピックを控え、自国や他国の国旗・国歌に敬意を表するのは国際感覚として当然の事である。②Y新聞の「入生案内」に「長生きするのが怖い子供達も自分の生活で一杯で介護は期待できない」と指摘した。



筆者 岩切康氏

あり我々の知らない話

も飛び出すなど、いろいろ勉強する事ができた。その後、ジブラルタ生命の今村講師による外貨活用講座を聴講し、現ゼ口金利下において老後の生活資金を少しでも目減りさせない方策について勉強することができた。会食では石崎耕太郎新会長の挨拶の後、来賓の中元地方協力副本部長からの祝辞があり、村山県会長の首頭で乾杯し、和気あいあいのうちに平成



鹿児島地区協議会の総会状況

慰霊碑等清掃

お盆前の8月4日、旧喜入町太平洋戦争戦没者慰霊塔及び招魂塚 西南の役での西郷軍従事の旧喜入町出身の英霊の碑)の清掃を遺族会と合同で実施。喜入地域の方々に徐々に奉仕活動の状況認識が広がりがつつ有り。喜入支部長 春田博明 記



早朝6時から清掃に集合した会員

新聞・TV雑感

①東京都立高校の教員らが、入学式などで国歌斉唱時に起立斉唱せず処分を受けた事を不服として裁判で、最高裁は「式の秩序や雰囲気等を一定程度損なうもので生徒への影響も否定できない」と指摘した。

うな態度は許されるものではない。2年後に東京オリンピックを控え、自国や他国の国旗・国歌に敬意を表するのは国際感覚として当然の事である。②Y新聞の「入生案内」に「長生きするのが怖い子供達も自分の生活で一杯で介護は期待できない」と指摘した。

「い」の相談に回答者は、生きることへの憧れを胸に若くして亡くなった人は大勢いる。高齢まで生きることが出来るのは、老いを楽しむ義務がある。」と回答している。この言葉を胸に健康寿命を少しでも伸ばせよう努力しなればと思う。鹿児島地協 中央支部 岩切康 記

鹿児島偕行会

会長 麓川昭憲 元幹部自衛官と旧陸軍科校の会

幹部自衛官OBの皆様、長年に亘り我国防衛の第一線での活躍、大変お疲れ様でした。鹿児島偕行会は、皆様の入会をお待ちしています。(連絡先) 鹿児島偕行会事務局 〒892-0815 鹿児島市易居町10-12村田ビル1階 鹿児島県隊友会事務所内 TEL:099-295-6724 FAX:099-295-6723 (連絡先) 事務局長 宮ノ原 携 090-7473-5923、Eメール hiro-m@po.mct.ne.jp 英霊に敬意を。日本に誇りを。

漕舟競技会



中隊の名誉を賭けた漕舟競技会の状況

川内駐屯地は、去る8月9日に川内川で平成30年度大隊渡河競技会を開催しました。本競技会は、川内駐屯地に所在する第8施設大

隊の各中隊対抗による漕舟競技会であり、漕舟能力の向上と部隊の団結強化及び士気の高揚を図る目的で、毎年夏、風水害の発生しやすい時期の特性を考慮)に行っているものです。

各チームは、ろ手4名、かい手8名の計12名で編成され、今年度は本部管理中隊、第1中隊、第2中隊、第3中隊の4チームが出場し、約1週間という短い練習期間で漕舟能力に加え、体力・気力を鍛え上げて競技会に臨みました。

コースは、開戸橋下を下流側へ一斉にスタートし、下流ブイ、上流ブイを回り、同じ開戸橋下でゴールとなる約1500mのコースです。

競技間、息を合わせて舟を漕ぎ白熱した戦いを見せてくれる選手と、応援者がメガホンを片手に自分の中隊の舟を追いかけながら必死で応援する姿に、各中隊が一丸となって優勝を目指しているのだと、心打たれるものがありました。

結果は第3中隊が圧倒的な差をつけて優勝、昨年度優勝の第1中隊は惜しくも2位でした。本競技会は一貫に開放し、広報ブースを設置し、野外水具1号や人命救助システム、機動支援橋等の装備品展示、競技会で使用している渡河ボートの体験試乗等競技会以外にも楽しめますので、是非一度お越しください。

第8施設大隊 広報班記

服務無事故継



更なる服務無事故継を誓う奄美基地分遣隊

当隊は、平成15年5月2日から服務無事故を継続しており、平成30年7月18日をもって服務無事故継続5555日を達成しました。

近年公務員の不祥事が相次ぐ中、このような日を迎えられるのは、歴代隊長指揮の下、これまで奄美基地分遣隊で勤務した隊員個々が勤勉に勤めた結果であると思えます。

現在海上自衛隊を取り巻く情勢は厳しく、国民の自衛隊に対する期待は益々高まっています。是非一度お越しください。

第8施設大隊 広報班記

自衛官勤務を振り返り

「兜陰矢の如し」あつという間の三十数年、自衛官としての勤務も残り数カ月となり、今は充実感とお世話になった方々に感謝の気持ちで胸が一杯です。特に入隊に際し親身にご支援いただいた

私がお自衛隊の方と最初に出会ったのが高校2年生の時です。以来、自衛隊を生業の職業として意識するようになりましたが、私自身一度は民間への就職を選択しようとした時期もありました。しかし、最後は広報官の熱意を信じ入隊、今では本

謝しています。お二人とは今でも年に一回の年賀状で繋がっています。そんな私が、自衛隊生活最後の仕事を地域事務所

の所長として終えようとしています。これもまさに縁だと思えます。現場で頑張る広報官という仕事がいかに大変か見えない苦労があるのかそして募集の難しさを感じつつ当時を振り返ることがあります。

人が生きて行く上で大切なことは、感謝の心を忘れない」ということだと思えます。

私は、平成24年に入隊し、約5年間電子整備員としての艦艇勤務を経て、鹿屋システム通信分遣隊に配属されました。私が勤務している当隊整備科の主な業務は、通信・放送機材の保守・整備、電話回線の保守・整備です。

初めての陸上勤務で仕事内容も全く違い、一からスタートですが、不安が大きかったのですが、整備科の先輩方の指導で不安も少しずつ減っていきま

だと思えます。私はまもなく、自衛隊での全任務を終了します。一抹の寂しさはありますが、自衛官として勤務できた喜びと感謝の心を胸に、制服を脱ぐ日まで自衛官道を進んでいきたいと思

国分地域事務所長 尾堂功浩 1尉

隊員紹介

鹿屋航空基地 林孝輔 海士



仕事に真剣に取り組む林孝輔士長

定年退職をまじかに控えて

昭和58年4月自衛隊入隊以来約35年、勤務期間の多くを艦艇乗員として勤務し、自衛隊生活を通して学んだことは、基本の徹底でした。

これは実に簡潔明瞭な言葉ですが、人生において大事な事項です。

何事にも言えることですが、日々の積み重ねが一番大事だと感じます。これから色々な仕事が増えて忙しくなると思いますが、この2つを両立できるように仕事、筋トレでも毎日少しずつ積み重ねていけるよう、日々精進していきたくと思

筆者 八汐学海 曹長

家族旅行

鹿児島地協 南支部 横手みづ子 氏

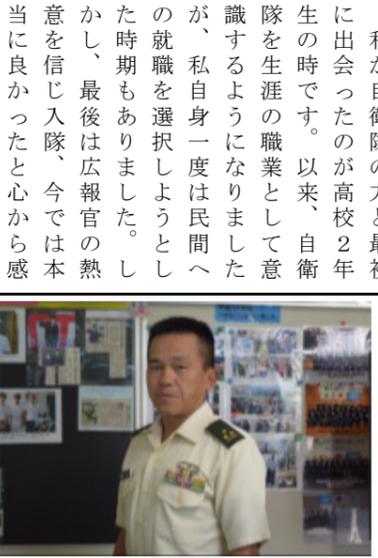
私の主人は、今年還暦を迎え、家族で還暦を祝うため2泊3日の旅行を私と息子、娘で計画しました。

旅行先については、主人の希望を尊重して東京と栃木になりました。初日は築地で昼食後、

浅草寺及び靖国神社に参拝し、東京スカイツリーなどを見物しました。

この時家で家族旅行など行かなかったので、夫への日頃の感謝の気持ちを込めて、家族の絆を深める良き思い出が作れたと思

筆者 八汐学海 曹長



国分地域事務所長の尾堂功浩1尉

私がお自衛隊の方と最初に出会ったのが高校2年生の時です。以来、自衛隊を生業の職業として意識するようになりましたが、私自身一度は民間への就職を選択しようとした時期もありました。しかし、最後は広報官の熱意を信じ入隊、今では本

謝しています。お二人とは今でも年に一回の年賀状で繋がっています。そんな私が、自衛隊生活最後の仕事を地域事務所

の所長として終えようとしています。これもまさに縁だと思えます。現場で頑張る広報官という仕事がいかに大変か見えない苦労があるのかそして募集の難しさを感じつつ当時を振り返ることがあります。

人が生きて行く上で大切なことは、感謝の心を忘れない」ということだと思えます。

私は、平成24年に入隊し、約5年間電子整備員としての艦艇勤務を経て、鹿屋システム通信分遣隊に配属されました。私が勤務している当隊整備科の主な業務は、通信・放送機材の保守・整備、電話回線の保守・整備です。

初めての陸上勤務で仕事内容も全く違い、一からスタートですが、不安が大きかったのですが、整備科の先輩方の指導で不安も少しずつ減っていきま

だと思えます。私はまもなく、自衛隊での全任務を終了します。一抹の寂しさはありますが、自衛官として勤務できた喜びと感謝の心を胸に、制服を脱ぐ日まで自衛官道を進んでいきたいと思

国分地域事務所長 尾堂功浩 1尉

遺言・相続 交通事故 企業法務 借金

★他、不動産取引、民事・家事一般、刑事

5分間 無料電話 Q&A

法律相談 30分あたり 5,000円(税別) 予約制

交通事故相談は初回無料(物損のみは除く)

なかま法律事務所

加治屋町電停・バス停より徒歩4分

鹿児島市加治屋町 15-20

☎099-216-8788

■営業時間/9:00~18:00 ■休業日/土・日・祝日

HP 検索 なかま法律事務所 鹿児島

同窓会 忘年会 新年会 承り中!

FU RU

クマ

アクアガーデン ホテル福丸 099(226)3211